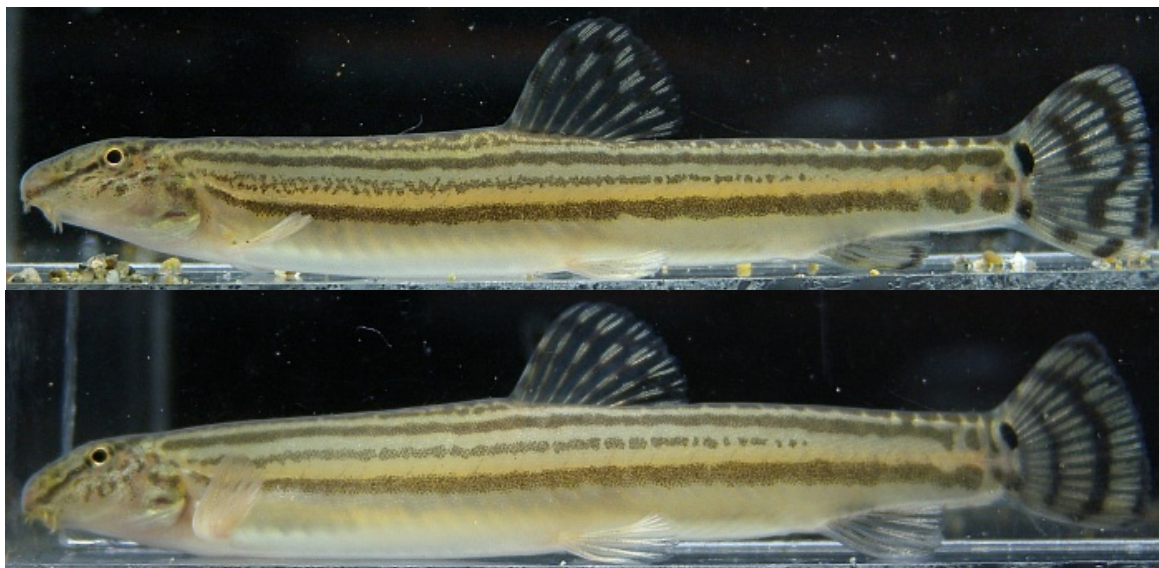
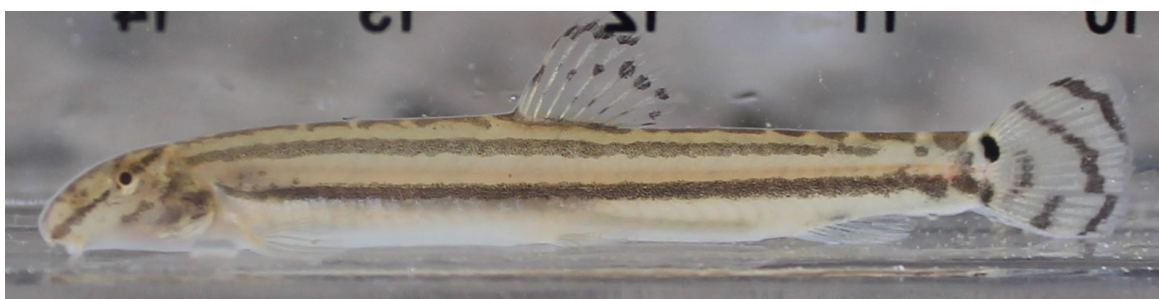




▲写真 6. 兵庫県のチュウガタスジシマドジョウ（日本淡水魚類愛護会 online a）



▲写真 7. 香川県のチュウガタスジシマドジョウ（香川淡水魚研究会 2020）



▲写真 8. 愛媛県のチュウガタスジシマドジョウ（愛媛県 2014）

全体としては、スジが一本線になっている印象はあります。しかし、頭部から尾部まで一本のスジがビシッと通っている個体はそう多くなく、特に近畿地方では、全体もしくは尾部が点列になっている個体が数多く見られました。

さらに詳しく調べるには、「県」という括りではなく、「流域」という括りで見ていく必要があります。しかしインターネット上の写真では、そこまで詳しいことは分かりません。どうしたものかと思いあぐねながら情報を探していたところ、衝撃的な一文が目飛び込んできました。

チュウガタスジシマドジョウ……の体側の縞模様は……同所で捕っても個体ごとに縞模様は微妙に異なっていて、全く同一ということがない。夏に捕れる数 cm 程度の幼魚は、体側の模様が点々模様でそれが逆に可愛らしく、成長するに従って筋状につながっていく。筋は季節によって現れたり、消えたり、途切れたり、繋がったり、意外とダイナミックに変化する。（雑魚の水辺 online）

成長段階や季節によってスジが変化するのであれば、チュウガタスジシマドジョウのスジに地域差はないことになってしまいます。つまり、これまで見てきたチュウガタスジシマドジョウのスジの違いは、個体差である可能性が極めて高いことになります。しかも、スジシマドジョウ類やシマドジョウ類のスジや模様の入り方は、体の右側と左側で異なっていることすらあるということです（写真 9）。